第６４号　平成２９年１１月２５日発行

球磨んタイムズ

TARAGI YUNOMAE MIZUKAMI OKAHARU

地域と読者の架け橋

編集・発行
熊日多良木販売センター
球磨郡多良木町大字多良木 356-1
TEL 42-3355　FAX 49-1726
http://www.taragi.com/
熊日湯前販売センター
球磨郡湯前町中里 1830　TEL 43-2151
㈹小出堅太郎　石田敏郎　那須信一
編集：岩水由香

球磨んタイムズは当社ホームページでもご覧頂けます。また facebook ではコーナーごとに掲載中。「熊日多良木販売センター」を検索して下さい。

いつも熊本日日新聞をご愛読いただきありがとうございます

朝の霧も濃くなり、すっかり秋深くなりましたね。庭の木も色鮮やかに色づき、イチョウの葉の緑と黄色のグラデーションも綺麗です。秋晴れの日には紅葉狩りに出かけられるのも良いですね☀

～ゆのまえ漫画フェスタ2017～

１１月１２日(日)に湯前町で「ゆのまえ漫画フェスタ」が開催されました。人気キャラクターのメークや衣装になりきった“コスプレイヤー”たちが会場を盛り上げました。また、人気漫画家の村枝賢一さん（芦北町）や、アニメ「ドラえもん」のスネ夫役を演じる関 智一さん等によるトークショー。「ドラゴンボール改」の主題歌を歌う谷本貴義さん・「聖戦士ダンバイン」の主題歌を歌うＭＩＱさんのアニメソングライブショーなども行われ大盛況となりました。

歴史ある寒蘭展示会 ～多良木愛欄会～

１１月１１日～１２日に多良木愛蘭会（会長、執柄保さん、会員９名）の第４３回寒蘭の展示会が、多良木町の石倉であり大勢の欄愛好家が町内外から見物に訪れました。今年度の出展者は１７名で１００展の出品がありました。そのなかで桑原悟さんの貴峰（きほう）が総合優勝賞に、総合準優勝賞には尾方博晴さんの緑皇（りょくおう）が選ばれました。

～球磨川山野草愛好会～

１１月１１日～１２日に、あさぎり町岡原保健センターにて「寒蘭展示・即売会」（球磨川山野草愛好会・清水正秋会長）が開催され、多くの来場者で賑わいました。例年に比べ天候に左右された為、花のつきがやや小ぶりとのことですが、清水会長は「それでも質の高い蘭が揃いました。是非多くの方々に観てもらいたい」と話されていました。

熊野座神社 ～球磨神楽奉納～

多良木町久米にある熊野座神社（椎葉社宮司、大森重臣総代会会長）の秋季大祭前夜祭が、１１月４日に開催され球磨神楽が奉納されました。今年は特別にライトアップされた社殿内で行われ、幻想的な舞いが披露されました。球磨神楽を舞うことで神様をお迎えすると共に、ご神域と里をお祓いすることが出来るそうです。

次のページへどうぞ

おしらせ

サイテク祭 2017

楽しい体験コーナーや昼食コーナー（囲炉鯉さんより）あります！たくさんのご来場をお待ちしています!!

お問合せ
多良木町青少年育成会議
（多良木町教育委員会内）
TEL ４２－１２６７

第６４号　平成２９年１１月２５日発行

第９回全日本少年春季軟式野球熊本県大会 兼　第６回味岡旗少年軟式野球大会

１０月１４日から多良木球場を主戦会場として、全日本少年野球熊本県大会が開催されました。（協賛）ナガセケンコー株式会社　（後援）熊本日日新聞社。

多くの中学生球児達が全国大会を目指し、白熱した戦いが繰り広げられました。

（試合結果は１１月５日の熊日朝刊に記載）

新聞記事を楽しむ！

NO.32

～記事から気がかりに出合う楽しみ～

図書館の入り口に「本との恋の季節」と書かれた読書週間ポスターを眺めながら、「素敵な出合い」と思ったりした。

６日の朝刊に、【石牟礼文学『食』で味わう、詩人ら鼎談（ていだん）熊本市】の記事があった。「テキストとして自伝的小説『椿の海の記』を取り上げた。『椿』は４歳の石牟礼さんが主人公。昭和初期の天草の風土と人間の暮らしが匂い立つ文章で描かれている。山海で採れる恵みを詳細に描写することで『少しずつ世界が広がって、おびただしいものがあると分かる』と伊藤さん（熊本文学隊・熊本）。枝元さん（料理研究家・東京）は『生きることと食べることはくっついている。生きるという【残酷さ】に下りていくのが石牟礼さん』と持論を述べた。平松さん（エッセイスト・東京）は『自分は何なのか、人間はどういう存在なのかという問いの答えを食べ物から見つけようとしている』と指摘。『４歳という装置を通して【言葉を奉る】ことを可能にした作品と締めくくった』」と書かれていた。【言葉を奉る】の表現が何を意味するのか気にかかった。さっそく机の横に途中まで付箋を貼った読みかけの数冊の本の中から、「椿の海の記」を取り出した。また、前日に読んだ柳田国男民俗学の中に「伝統的な生活文化を構成してきたさまざまなファクター（要素）を、どう生かして行くか。単に外面的な風俗慣習ばかりでなく、内面的な要素も含めて伝来の生活文化をどのように生かす」が気にかかっていた。ところがその日の朝、廊下で「おはよう。二週間前に五木の道の駅で買った椎茸おいしかった。」「そうでしょう。私もそう思います。先生、１１日、１２日に五木村の子守唄祭が催されます。ぜひ来てくださいね。」と、満遍な笑顔で挨拶を返してくれた。この言葉に五木伝来の文化は確かに伝わり息づいていることに気づいた。６日の朝は、新聞記事から気がかりに出合い、生徒の言葉から気がかりが解けた「出合いの」朝だった。

（原稿提供：多良木高等学校 川北禎一先生）

繋がった童話発表会

毎年恒例の熊日童話会「秋の童話まつり」が 11 月 11 日に、多良木町の多目的研修センターで開催されました。主催は同童話会球磨支部（村山悦子会長、全 16 名）で、今年で 65 回目の開催となりました。多良木町内の４小学校から選抜された児童らが、情感豊かに物語を発表。訪れた多くの来場者も、自然と物語に引き込まれていきました。発表者の１人、井野優花さん（久米小６年）は「久しぶりの発表で、思い出すのが大変でした。緊張したけれど最後まで発表出来て良かった」と少し安堵した様子でした。またオープニングでは光台寺保育園児によるお遊戯や、久米小器楽部による演奏、中盤では会員による口演童話や手遊び、第一保育所園児による合唱、終盤には腹話術やマジックショーが行われるなど、多彩なプログラムの末、閉幕しました。村山会長は「夢を育む童話活動には、話者と聞く人の間に繋がりが出来ていくのが一番大事とされている。今回の発表会は、物語の中身を膨らませ（話者と聞く人が）１つになっていた。今日は大盛況でした！」と、自己評価されていました。

高等部現場実習事前学習「プロに学ぶ」

高等部では、年に２回、「現場実習」を行っています。「現場実習」とは、社会経験を広げ、働く力や態度、習慣を身につけたり、自己理解を図り、卒業後の生活について具体的に考えたりするために、事業所（福祉施設も含みます）で働く体験等をする、実際の場での学習です。今回は、１１月６日から１７日までの２週間、５０人の生徒が３９カ所の事業所で実習をさせていただきました。

今回の現場実習の事前学習では、「プロに学ぶ」と題し、「A コープなかくま」から梅田輝光様をお招きし、「仕事に対する思い」や「会社が求める人材」等について話をしていただきました。「会社が求める人材」については、「元気で明るい」「丁寧に取り組む」「飽きにくい」「意思表示ができる」など、具体例を交えながら教えていただきました。話を聞く中で、生徒らは、自分の振る舞いを振り返ったり、これからがんばることを考えたりすることができ、仕事への姿勢について学ぶことができました。

（原稿・写真提供：球磨支援学校）

多良木警察署だより

平成 29 年ひのくにピカピカ運動の実施について！

運動の目的　日没が早まる秋季から冬季の「夕暮れ時から夜間」にかけての交通事故防止

運動の期間　平成 29 年 10 月 15 日～平成 30 年 1 月 31 日

運動の重点

１：反射材の活用

２：前照灯の早めの点灯と上向き点灯の励行
（早め点灯時間の目安＝「午後５時」）

※雨天や霧などの悪天候の場合は、昼間でも前照灯を点灯しましょう！

（原稿提供：多良木警察署）

暖談なぁ～

◆今年の人吉球磨の大小の話題をかるた風に2回に分けお届け。◆い＝いのちの持ち物けんさ、ろ＝ロードレース人気、は＝初恋の味シソの色、に＝錦町モニターツアー、ほ＝防災無線デジタル化、へ＝閉校より町内存続の声も、と＝丼フェア賑わう◆ち＝町長選演説会高校前で、り＝龍谷大選手から一本、ぬ＝盗まれるな暗証番号、る＝ルールはピカピカ早め点灯、を＝大分で国際交流◆わ＝和綿の種まき園児も、か＝川村駅にヒノキの社、よ＝予防接種でミス、た＝多彩な音楽町中に、れ＝歴史街づくり国も助力、そ＝祖父母の会野球部支援◆つ＝槻木小に記念植樹、ね＝ネット配信くま鉄、な＝七蔵元を利き酒、ら＝ランチョンマットも出品、む＝無理せず安全運転（X）

次回の発行日は１２月９日（土）予定です。お楽しみに!!